

令和5年度第3回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

令和6年3月15日（金） 午後3時00分～午後5時00分

2 会場

花巻市役所本庁舎 3階 302・303 会議室

3 出席者

(1) 委員出席者

小田島浩徳委員、浅沼幸二委員、佐々木博委員、石川恭也委員、
中村良則委員、須川和紀委員、高橋忠和委員、漆沢俊明委員、中村佳子委員、
熊谷仁見委員、松葉孝博委員、川村厚委員 以上12名

(2) 委員欠席者

高橋豊委員、高橋和也委員、和川央委員、佐藤充委員、菅原康之委員

(3) 市側出席者

上田東一市長、岩間裕子総合政策部長、富澤秀和秘書政策課長、
伊藤浩秘書政策課課長補佐、八重樫尚孝秘書政策課企画調整係長、
吉田真彦秘書政策課上席主査、菊池遼秘書政策課主査

4 会議内容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

【上田市長】年度末のお忙しい中、花巻市の第3回まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席賜りまして大変ありがとうございます。

今年は第2次花巻市まちづくり総合計画を策定するということでありまして、その中で花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員の皆さんには大変お世話になりました。

6月の第1回会議では、令和3年度の効果検証をしていただきまして、そして11月には第2回会議において花巻市人口ビジョンの改訂、そして、第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間を第2次花巻市まちづくり総合計画の策定を考慮してもう一年延長するということについてご意見をいただきました。

今回は令和4年度の第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果についてご意見をいただくとなっておりますけれども、皆さんの忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョンにつきましては、2月8日に議会の承認をいただきまして、正式に決まったところであります。

この長期ビジョンは、どちらかというと定性的な部分が多くて、具体的な事業については、現在、令和6年度から7年、8年、9年の4年間の具体的な事業等について触れ

た計画であるアクションプランを策定中であります。

その中で、この総合計画には、やはり人口減少対策にしっかり取り組まなくてはいけないとして、子育て支援や、花巻の定住者を増やすということを別建てにしまして、プロジェクトとしてある程度具体的な事業についても議論したところであり、そのことも決まっております。今後の8年間における花巻市の市政の方向を決める大変重要なものでありますけれども、それを今後進めていく、あるいはアクションプランを実行していくことにつきましても、まち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的な効果等についてですね、しっかり検証し、それを参考にして、さらに我々として具体的な施策を考える必要があります。

その意味で今回の会議でございますけれども、我々としては皆さんの有益かつ忌憚のないご意見を望んでいる次第でありまして、ぜひよろしくご意見申し上げたいと思います。

皆さんのご意見をいただきながら、花巻市の市政を進めていきたいと考えておりますので、よろしくご意見いたします。

(3) 議事

【中村良則座長】 それでは早速議事の方に移りたいと思います。

次第の3番目説明 (1) 花巻市の人口動態の概況について事務局より説明をお願いいたします。

岩間総合政策部長から花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要を説明。続いて富澤秘書政策課長から、資料 No. 1 「花巻市の人口動態の概況」に基づき説明。

【中村良則座長】 ただいまの説明について何かご質問等ございませんか。どうぞ。

【小田島浩徳委員】 確認ですが、2ページの下にグラフがありますが、これは全国の数字だと思いますが、花巻市もやはり同じ傾向になるものですか。

【伊藤秘書政策課長補佐】 2ページ目の下の二つの表は全国の数値を参考として挙げさせていただきます。具体的に花巻市の件数というのは、今回資料として準備しておりませんので、具体的数値はお伝えできませんが、傾向としまして、やはり一つ目の婚姻数急減というので、婚姻数も減ってきているという状況がございますし、あとは、はっきりと出産控えと結論付けるものではないですが、やはり出生数を見ますと減ってきているということは言えると思います。

【中村良則座長】 よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。いつも人口は少ないという結論としておりますが、その背景に何かあるのか質問があればどうぞ。

【高橋忠和委員】 出生率のところですが、都市部は比較的出生率が低く、地方は出生率が高いという傾向があると思いますけれども、全国平均から見て、花巻市は出生率が低いと認識しているのですが、何か要因など分析できているのであれば、お示ししてもらいたい。

【伊藤秘書政策課長補佐】 合計特殊出生率の計算方法としましては、15歳から49歳の女

性を5歳区分ずつに分けまして、その区分ごとに生まれた人数と、女性の人数で割り返した数字を使って合計特殊出生率とさせていただきますけれども、まず一つは出生数が増えていませんので、率が上がらないというのをございますし、あとは出生数に比べ女性の人数が増えるとなりますと分母が大きくなりますので、そこでも率が下がる要因となります。女性の人数がすごく多くなっている事実はありませんので、どちらかというとならば花巻市では出生数が少なくなっている傾向があるととらえています。

【高橋忠和委員】他の地方都市の数字と比較して何か把握しているものがあればお願いします。

【伊藤秘書政策課長補佐】岩手県中部地区ということで、数字をとっているものがございまして、令和3年の数字ということでお話をさせていただきますけれども、花巻市が1.25に対しまして、北上市は1.33、遠野市につきましては1.43、西和賀町につきましては0.98ということで、県のホームページにも掲載されております。

【岩間総合政策部長】若干補足させていただきます。まず先ほどご説明しましたとおり、女性の数ということにつきましては、転出超過となっております年代、22歳から24歳の詳細を見ますと、女性の転出が非常に多くなっているということがございます。ということは、その年代の方がその後花巻市に戻ってこない状況がありますので、こういう言い方が適切ではないかもしれませんが、出産適齢期と言われているような年代の女性の数というのが少ないということはまずあると思います。

それから、第1子、第2子、第3子の出生の年齢を見ますと、やはり第2子の出産は、若干遅いかなという傾向が見られます。それによって第3子を産む年代になりますと、花巻市においては、他の県内の今言ったような少し出生率が高いところに比べるとある程度遅めということがございます。

それによって恐らくの話になりますけれども、お1人が産む子供の人数というところが少ないというような傾向があるのではないかと分析しております。

【中村良則座長】よろしいでしょうか？他にいかがでしょう。

出生率については実際に30代になってから時間を持てるという方が増えている。20代の方は結婚しないため子どもも産まれず。結局30代の女性がどれだけ多く地域にいるのかがポイントかなという気がしています。

では続きまして（2）花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度効果検証について事務局より説明をお願いいたします。

富澤秘書政策課長から、資料 No. 2「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度効果検証」に基づき説明。

【高橋忠和委員】5ページ目の出産子育てのところですが、私は銀行の者なので、子どもがいるお母さんたちにいろいろ意見を聞いてきたところ、保育園の中でも人気がある保育園と、人気のない保育園があって、人気がない保育園は布オムツを使っているために、働いているお母さんたちから少し敬遠されているそうです。メリットデメリットがあってそのようにされているのかと思うのですが、もし改善できるので

あれば、このような偏重が是正されるのかなと思いきご検討いただければありがたいなというご意見を賜ってきました。

あとは、お母さんたちは子育て支援センターを利用する機会があって、花巻市はとも支援センターがたくさんあって非常に良いというが、予約制であるために、子どもの都合によっては利用するのが難しいケースもあり、予約不要で気軽に相談できたり遊ばせたりできるといいなと話されていた。他の市町村を見るとできるところがあるようです。このようなことについて検討できるのであれば、相談体制に関する印象も変わってくるのかなと思います。多種多様な方がいらっしゃると思いますので、そこは話し合っていて、もし修正できるのであればお願いしたいと思います。

【中村良則座長】2点ご意見としてですが、いかがでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】ありがとうございます。今お話をいただきました布オムツを使っている保育園について、少々勉強不足でございましたので、担当部署の方と状況確認いたしまして、そういうお話があった旨を共有し対応したいと思います。

子育て支援センターにつきましても同様に担当部署に共有しまして、検討させていただきたいと思います。

【岩間総合政策部長】布オムツの関係ですけれども、実施されているのは、私立の保育園等で行われているものではないかと思えます。それぞれの園の教育方針ですとか保育方針ののっとって布オムツを使用していると思えますが、今担当からも申し上げましたとおり、そういう声もあるということについては、担当部署の方から園の方にそういうことの改善がもし図られるようであれば、次の入園に繋がる声もありますということをお伝えすることは可能だと思いますので、対応させていただきたいと思えます。

それから、子育て支援センターの予約関係ですけれども、予約不要で実施していたのですが、コロナ禍となった際に予約制に切り替えたという事実がございます。現在もまだ予約制としているかどうかは確認しておりませんが、おそらく新型コロナが5類に移行した後は、従前の方法に戻していると思っておりますが、確認させていただきたい。

【高橋忠和委員】少し現状が分からなかったのでよろしくお願いします。

【中村良則座長】ほかにいかがでしょうか。

【川村厚委員】私は花巻市地域自治推進委員会の所属ですが、農業の団体の出身でもあるので、ちょっと農業の絡みの話をしたいと思う。今年皆さんよく言われるのは、水不足ではないか、ダムは大丈夫かという声をよく聞きます。

それはおそらく駄目でしょう。一番問題になっているのが、首相が演説していた5年に1回は水張りをしなさいという政策である。そうしないと田んぼに補助金などを出しませんよと打ち出したわけです。

その対策として、もし畑にするのであれば、一反歩あたり最大25万円の助成金を出して土地改良区からの枠からはずすということになっていますが、5年に1回の水張りを求めるということは、結局は減反政策といえますか、半ば強制的に米（田んぼ）から畑にしななければならないとさせられたことです。

恐らくですが、普通、どんな田んぼであっても水が普通に出れば大体3時間、4時間でいっぱいになります。しかし2年も減反して畑にしていた土地に水をためるとなると1週間出しっぱなしでも、たまらないものなのです。

そうなりますと、あの政策のおかげで恐らく春先にすごい水を使う事になり、今年は大丈夫かなと不安になる。通常でも豊沢ダムというのは年に2回転半ぐらいします。これは皆さん前にも言いましたが、岩手県でこんなダムは豊沢ダムだけです。よそのダムは今の時期に1回貯めた水で満杯にしたら秋まで間に合うダムです。5年に1回水張りをして、補助金をもらいなさいというようなことを首相が演説した以上、必ず強制的にやらなくちゃならなくなりますけど、その辺のこの水の観点についても考えてもらいたい。

花巻ではじゃあ畑にすればいいといっても、基本的に麦を作るとなったら、6俵とれるのかどうかである。北海道ならば11俵から作れます。結局は減反政策の助成金で麦とかを生産しているわけです。その辺のことを踏まえると、もうちょっと水というものに目を向けていただければ非常に助かります。

なぜ心配するのは、豊沢ダムはもうできてから50年経過しています。ということは、コンクリートの耐用年数はとっくに終わっているといえます。ただし今回検査したら大丈夫だとなっていました、やはり将来的にはそれらも踏まえて盛り込んでもらわないと現場としては花巻で安心して農業できるのかということがあるのかなって思うのかなと思い、今日は意見として発言させていただきました。

【中村良則座長】 この政策はどこに行っても大体評判が悪いと思う。

それから水そのものですね。水の確保はやっぱり地域の農業とセットであるといえます。それに対する対応みたいなのがあればお願いします。

【富澤秘書政策課長】 ご意見ありがとうございます。まずは本日のご発言につきまして、その担当課と共有した上で、何ができるかというところも踏まえて考えていきたいと思っております。市長の挨拶にあったとおり、来年度からの総合計画に何を取り組んでいくかというアクションプランの策定作業中でございます。まさにその部分でも農業所得を向上させることについて練っている最中でございます。結果としてその総合計画と本日ご意見をいただいております総合戦略がリンクするものということでございますので、本日の発言を参考とさせていただきますながら、さらに活かしてまいりたいと考えます。

【中村良則座長】 よろしいですか。では他にどうぞ。

【漆沢俊明委員】 5ページの結婚・出産・子育ての希望をかなえるというところ、子育てしやすいまちだと感じる市民の割合に関する件についてなんですが、これ市民アンケートで実績値が51%、半数程度でしょうか。まずはこの市民アンケートを答えた方々の年代層がわかるものか。これが1点です。

それから、この実績値と下の重点方針2のところの実績がリンクするのかどうか。2点お願いします。

【伊藤秘書政策課長補佐】 ありがとうございます。最初に5ページの子育てしやすいまちだと感じる市民の割合について、市民アンケートに回答している年代で多いもので

すが、全体としては各年代あわせて 1,000 人程度の回答をいただいております中で、主に 50 代、70 代からの年代が多いという結果でございます。

【富澤秘書政策課長】今お答えしたとおりでございます。そもそもまちづくり市民アンケートの対象の年代は人口の構成を縮図として無作為に抽出した 2,500 人に対して送らせていただいております。

ただし、実際の子育て世代に対する問いではなくて、今申し上げましたとおり 70 代からの回答もありますということで、これがこの指標はですね、先ほどもお話ししましたけれども、市の総合計画で設定している指標をここに引っ張ってきているものでございまして、今その総合計画のアクションプランで指標を設定しているところでございますが、そちらでターゲットをきちんと絞るべきだろうということで、少し見直しをさせていただきたい。

ただし現状とすると、今、伊藤課長補佐が申し上げたとおり子育て世代からの回答だけではないため、実績が薄まってしまっている状況です。

【漆沢俊明委員】重点方針の実績とはリンクするものでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】市の子育て相談体制に満足している保護者の割合という項目ですが、こちらはまちづくり市民アンケートではなく、3歳児健診を受けた方々に向けたアンケートによる数値によるものということです。

【漆沢俊明委員】わかりました。実は子育てしやすいまちというキーワードは非常に転入人口を増やすためには重要な事項だなと思ひまして、50代、70代に聞いてもしょうがないなと正直思いますので、やはり対象の方々がいかにそのように思っているかというところが重要じゃないかと感じます。

そのため、いわゆる「まち・ひと・しごと」ですね。結婚・出産・子育ての希望を考えると実績値、目標値も当事者が実際に子育てしやすいと思っているのかどうかを把握して、そこをターゲットにした施策を行うことが非常に重要だと思いますので、意見として伝えさせてもらいます。

【中村良則座長】数値目標の指標に用いているアンケートの設計は、変えられるかどうかということでした。

【富澤秘書政策課長】今ご覧いただいている総合戦略は令和6年度までの計画期間となっております。令和6年度中に令和7年度からの総合戦略を策定する予定でございますので、そちらには新しい総合計画に設定する指標と整合性を図る形になります。そのため実際には令和7年度からの計画で見直しとさせていただきたいと思ひます。

【中村良則座長】よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか？

【中村佳子委員】転入人口を増やすというところで、資料1の3ページについて、「国外からの転入については18歳から39歳まではじめとした多くの年代で転入超過となっている。」とあります。それで今、留学生の方が増えているのか、それとも就労目的の方が増えているのかを教えてくださいたいのが一つです。

それから、もし何かこの転入超過を増やす施策をしているのであればその内容を教えてください。

【富澤秘書政策課長】資料1の3ページの下年代別のグラフでございますけれども、こ

れ以上の分析や、属性については申し訳ございませんがわかりかねてございます。

ただし、国外から入ってきている方々のほとんどは数字としては出せませんが、市民登録課からのお話ですと就労目的ということでございます。

【中村良則座長】 転入される方は別に国内の方だけではなくて、他の地域からも来られているということでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】 国外からの転入については、日本人、外国人どちらも含めた形で国外からの転入であると整理しております。

【中村佳子委員】 就労目的で入ってきている方が多いということですね。花巻市として海外の就労者が増えるような施策は今のところ行ってはいないでしょうか。

【伊藤秘書政策課長補佐】 今現在で外国人の皆さんを花巻市にお呼びして就労いただくことに対する明確な施策や取組は行ってないところです。

【中村佳子委員】 承知しました。基本目標 1 のところで、有効求人倍率について触れられていまして、求人と求職者のミスマッチによると書かれておりますが、原因はミスマッチもありますが、そもそもその働く人がもういないのではないかという見方もできるのではないかと思います。少子高齢化で働ける世代がもう少なくなっているのも、もう外から呼ばないとその状況は改善しないのかなと感じています。

この1年間で花巻市の有効求人倍率は 1.5 ぐらいでずっと推移しているので、今回は海外のことを言いましたけれども、もう少し就労者については視点を絞った取組が必要じゃないかなと感じました。以上です。

【岩間総合政策部長】 おっしゃるとおり、元々の就労する方の人数が減ってきているのは事実でございます。市として外国人労働者を呼び込むというような施策は現状で行っておりませんが、市内の各企業においてはそのような取組が見られると思っております。

いずれ労働者の確保という点で、外国人の方々を市として呼び込む施策も今後はもしかしたら必要になるのではないかと考えておりますが、ここにつきましては、やはりコミュニティの方に、ご理解をいただくということが必要だと思っております。急激に外国人の方がコミュニティに入ってくことに市民の方のご理解をいただかずに進めると、様々なトラブルの原因や軋轢の原因が生まれると思っております。そのため、市としてそのような施策を打っていくということであれば、まずもって市民の方々のご理解をいただくことも必要ではないかなと思っております。

企業がそれぞれの努力において実施する部分のほかに市の施策として行っていくなればその点は重要になってくると思います。

【中村良則座長】 よろしいでしょうか。確か花巻市は外国人の数が県内では5番目ではないですかね。盛岡、一関、北上、奥州と続く並びだったと思います。

花巻市はネパール人の比率が高いです。職場で集中的に雇用しているのが要因の一つにあって、全体的には韓国、タイ、インドネシア、フィリピンが多い傾向にあります。

【石川恭也委員】 県南広域振興局でも多文化共生の取り組みを富士大学と一緒にやらせていただいて、元々は I L C の関連ということで始めたものですが、他の県南地域の

市町を見ましても、例えば一関市とか遠野市は外国人労働者の受け入れとか、受け入れ環境の整備などにも取り組み始めているところもありますので、そういったところも含めてぜひ富士大学とご相談いただいて、地域の受け入れや多文化共生について丁寧に地域コミュニティと取り組んでいくことが必要だと思います。

特に外国人労働者については国の制度がどんどん変わってきていますので、そこはタイムリーに対応していく必要がありますし、そこを全国でも取り合いというか競争になってくると、先行して取り組んでいかないと、出遅れてしまうと思います。特に地域との関係性づくりについては研究していく必要があるのかなと思います。

【浅沼幸二委員】 工業関係で言えば、今の円とドルの関係を見ますと、日本は発展途上国と同じ給与形態です。中国や東南アジアで工場をやっていたのが、全部日本に戻り始めている状況の中で、外国人労働者を増やすというのは、今の給与形態では、日本には来ないのではないかという見方をする方も非常に多くいます。

大企業は今回、春闘ベアで相当アップしますけれども、中小企業、特に地方の中小企業に関しては、そういうことができないのではないかという見方をすれば、給料の安い地方に外国人が来るはずがないだろうと思います。ならば中央の給料の高いところに外国人が集中するのではないかという見方をする方もいらっしゃいます。

ただ、どうなのでしょう。今後どのような形で日本の経済を上向きにさせられるかを考えたときには、移住定住も大切ですが、もっと穏やかに成長できるような施策を考えた方がいいと思いますし、今この資料を見て、農業の所得が230万というのが二重丸の評価がついているという、この見方自体が間違っているのではないかと思います。これが500万600万の所得があるよとなれば、わざわざ東京、大阪、仙台で稼がなくても地元で農業やってもしっかり食えるし、車も買えるし、家も建てられるよという情報を早く作るべきだと思います。

ですから、外国人を増やすことも考えなきゃいけないかもしれないけれども、今いる人たちがいかに豊かな生活ができるかということを重点的に考えた方が手っ取り早い気がしています。

【中村良則座長】 今、総括的な結論をいただいたと思いますが、最近つくづく思うのは、地方はものづくりで、経済を支えてきたと思うのですが、今は圧倒的にサービス業が経済の中心を占めていますので、やはりそのサービス業が地方地域の中でも根付いて拡大していくことがなければ、若い女性などは来ないだろうと思います。

ものづくりの力を蓄えていくとするならば、今の時代にふさわしいサービス、これはデジタルかもしれませんけれども、産業構造の転換というか、これをやはり地域の中で本格的に追及しないと人口問題にはなかなか対応できず、当然所得の問題も改善されないととなります。最後には介護の現場の中で人手が欲しいのに外国人が来てくれないとなっていくと思います。

最終的には地域の産業構造を変えていくための施策を市で力を入れてやっていくことが重要じゃないかなと思います。

【石川恭也委員】 3ページの農業所得の総合評価には、農業者一人当たりの農業所得金額は目標値を上回ったものの、農業生産資材の価格高騰が続いており、農業経営に影

響を及ぼしていると記載がありますが、ここで説明されている農業所得は多分必要経費を控除した額だと思うので、農業所得の金額が上回っていることと生産資材の価格高騰が続いていることが関係しているのは説明として適当なのかどうかというのが一つ。

それから、先ほどご指摘あったとおり農業者一人当たりの農業所得金額といったときに、これは市内の全農業者の所得を平均したものですので、おそらくその零細、例えばハウス 1 棟 2 棟くらいとか、田んぼも一反歩弱程度でやっている方も含めた全ての平均とするとこのような金額になってしまうと思います。農業の販売額が所得ですが、今おそらく 1,000 万円以上の販売をしている農業者が一体何人いるのかとかいうのが、担い手になる人たちがどれぐらいで、その人たちが生活はどんなのかっていうことを見ていかないと、平均で見ていると指標が適当なのかどうかを検討する必要があります。

特に農業につきましては、ここ 10 年 20 年ぐらい担い手の集約などを言ってきたのですが、その担い手すらもう高齢化していなくなってしまうということが起きていて、全国でも起きてきているところでもありますので、次の戦略においては、この指標をどう見せていくのか見直していただく方がよろしいのかなと感じました。

また、今回これは令和 4 年度の数値で、コロナ禍の中にあつた令和 3 年度から 4 年度にかけてどう改善しているのかというものを、前々回の資料を見ながら見比べてみたんですが、基本目標 1 についてはおおむね改善してきているのかなという印象です。観光客については改善途上にあると見ておりました。

基本目標の 2 につきましては、特に市内高校卒業者の市内事業者への就職率というのが令和 3 年度は 50.8 だったのが令和 4 年度は 43.9 というのが、先ほどの説明にもありましたコロナ禍で揺り戻しがきているのではないかとというとおりでと思います。その中で、その右側に説明があります、ふるさと奨学生定着事業補助金ですとか、はなまき夢応援奨学金といった施策が今後どう効果を出してくるかをしてみる必要もあると思います。と言いますのも、今大学生が奨学金を借りている率は半分を超えています。ほとんどの奨学金は返さなきゃいけないものになっていて、それが結局大学を卒業した途端に借金を抱えて働かないといけなくなると、当然賃金水準の高い会社、返しやすいくところに行ってしまうということが今の大学生の県外就職が多いということに繋がってしまっているとすれば、県でも取り組んでいるのですが、その奨学金の返還を支援する制度があるということ市内の企業とも協力しながら、もう少し市内の住民の方や子育て世代の方にも知っていただくことも大事なかなと思っておりました。

それから、最後になりますけども、6 ページの指標 4 のところで、やはり気になるのは、これからも花巻市に住み続けたいと思う 15 歳から 39 歳までの市民の割合ですが、今回が 74.0、前回令和 3 年度というのは 62.3 であり、40 歳以上の人の割合が 83.0 から 92.9 に改善しているというところで、どちらも同じ 10 ポイント程度上がっているのですが、15 歳から 39 歳の方が令和 3 年度にかなり落ちてしまっていた部分があって、今回で回復しましたが評価が三角であったものの、実は 62.3 から 10 ポイントほ

ど改善しているというところはあるし、令和5年度の実績でどこまで改善して目標値に近づくのかというところを見てく必要があると思いますし、改善しているという見せ方をしていただければ、そこまで悲観的にならなくていいのかなと思っておりました。

【中村良則座長】なかなか適格で鋭い指摘だと思いますけども、一つは農業所得に関する指標の設定の見直しについてでした。

【岩間総合政策部長】ありがとうございます。農業所得の指標については先ほど申し上げたアクションプランの指標設定の部分で同じ議論をしております、やはりある程度の規模とかの農業者の所得等で見るときではないかとか、様々な検討をさせていただいておりますのでその点については今後修正、改善できるものだと思います。

それから日本学生支援機構からの奨学金を借りている学生は本当に多いと思っております。今岩手県で国の補助金を入れたUターン者の奨学金返済の支援をさせていただいておりますけれども、市内の企業で、そこに登録している数は少ないと認識しております、この点につきましても、やはり企業に働きかけるなどして、そこにまず登録していただく必要があるだろうと思っております。その上でさらに市として上乗せ支援ができれば一番いいのかなと思いますので、検討してまいりたいと思います。

【中村良則座長】よろしいでしょうか。続きましてですね、(3)地方創生関係交付金の実施状況の報告について説明をお願いします。

富澤秘書政策課長から、資料 No. 3-1 「地方創生関係交付金実施状況報告書」資料No. 3-2 「令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の実施結果」に基づき説明。

【須川和紀委員】先ほどのまち・ひと・しごと創生総合戦略も含めてですけれども、先ほどのところで15歳から39歳までの人が街に住み続けたいと思う割合が出ていましたが、中高生と子育て世代というのは全く感覚が違います。ですから、そこはやはり分けて考える必要があると思います。もっと言うと、中高生が花巻市のことをよく知っているかという、恐らくよく知らないと思います。そのため、中高生に簡単に花巻市はこんなことやっていて、これは「他の市町村に比べてもすごいよ」とか「全国でもすごいよ」というPRの仕方もあると思うし、例えば高校生などは自分のお父さんお母さんなどの、今の施策の影響を受けている親世代を見ているわけですから、親目線からこれっていいよなど伝えてもらうなど、花巻市に対して想いを持って1回外に出てもらいたい。

私は外に出るのを止めることはないと思っています。自分の趣向やいろんなものに合わせて県外に出ることはいいのだけど、この花巻市にいるうちに花巻の良さがわかった上で他に行ってみると花巻市がやっぱりいいと言って戻ってこれるように、いろんな施策をやっていると思うので、それを高校生にも伝わるような、もう少し言うと、市民の皆さんにも伝わるようにホームページへ載せたり、花巻の良さをぱっとわかるような形での広報の仕方考えたりしていただけるといいかなと思います。これは岩

手県も学校も同じだと思います。どうしても行政は詳しく、平たくというか、全部をいのようにやらなきゃいけない部分もあるのかもしれないけど、すごく大事なかなと思います。以上です。

【岩間総合政策部長】ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思っております。特に今、中高生に対してどういうアプローチができるのかなというところを考えておりますが、一つの方法として、そういう年代のときに市政になんらかの参画をしてみ、そこでいろんなことを知っていただくっていうことも一つあるのかなと思っております。花巻北高校の皆さんにはいろいろとご協力をいただいておりますけれども、ワークショップを若者対象にしてやってみるとか、今度もイベントがございますけれども、そういうところに積極的に参加してもらって、そこでいろいろなことに触れていただくとかも一つ重要なかなと思っております。

また、気軽に市の職員などに相談できるなどの体制を作りたいなというふうにも思っておりますし、いずれシビックプライドの醸成というのをまちづくり総合計画では重要課題のひとつに入れております。また、須川委員がおっしゃるとおり、1回県外に出ることを全く否定するつもりはございません。

いずれ、例えば転出先で間接的にでも花巻市を応援していただけるような人材になっていただければ、それはそれで非常にありがたいことだとも思っておりますし、いずれシビックプライドをどうやって醸成していくかという部分については、非常に重要なことだとも思っております。ご提言ありがとうございます。

【富澤秘書政策課長】私からもぜひ須川校長先生に御礼なのですが、今年度のこの有識者会議の中で、若者が花巻市を出ていくという理由についてその原因を追究した方がいいという高橋忠和委員からのお話を受けて、この年度末に花巻北高等学校にお願いをして、今年卒業された三年生を対象にアンケートをとらせていただいております。その結果については、次回の有識者会議にその概要を報告させていただきたいと思っておりますし、先ほど岩間総合政策部長からもお話がありましたけれども、総合計画の策定にあたりまして、市内の高校生の方にも関わっていただいて、それをきっかけとして、策定となりました総合計画の長期ビジョンを説明するスライド動画の作成に花巻北高等学校の放送部の生徒さんに関わっていただいております。こちらはすでに岩手日日新聞にも取り上げていただきましたけれども、市のホームページや Youtube で見られるようになってございますので、ぜひ委員の皆さん方にも見ていただければと思います。

【中村良則座長】ほかによろしいでしょうか。

【川村厚委員】タクシー事業者や公共交通機関へ助成しておりますけれども、花巻市内では、とにかく夜10時を過ぎるとタクシーがありません。

このような状況で花巻でお酒を飲んで帰れるのか疑問です。最近は月2回ほど盛岡で飲み会をして帰る機会がありますが、11時頃の東北本線の最終に乗ってはなまき空港駅に降りると、石鳥谷駅も空港駅も、9時を過ぎると駅前にタクシーがない状況です。自分は花巻だからまだいいが、終電と一緒に下りる人の中には日詰駅などで降りる所を寝過ごして、帰るタクシーがないと言って唾然としている人もいました。そこ

で市内のタクシーを呼ぶか、自分の住所地のタクシーを呼ぶしかないが、すごく花巻って田舎ですねと言われます。

そのため、やはりこういった状況への対応もやっていかないと、街に出て交流などできず、若い人にここで暮らせばいいなどと言えないと思う。やはり彼らも画面だけではなく1対1での交流が大事だとわかっていますから、そういう面も考えていただければなというのが意見です。

【中村良則座長】 だいぶ時間がかかってきましたので、もし、最後にあればどうぞ。

【石川恭也委員】 最後に一点だけ。先ほどの須川委員からのお話を聞いて中高生、特に今高校で探求学習が本格化してきていて、高校生がその地域の課題を探しながら自分たちで課題解決に取り組むということが全ての高校で行われるようになってきていますので、その地域の課題や子どもたちが解決に取り組もうとする課題というのは地域にあるものなので、それは高校生だけでできるものではなくてやはりその地域の支援というのが必要になってくると思っていて、その地域の住民もあるし、企業だったり団体だったり、その高校をサポートして一緒に子どもたちを育てていくことが今後ますます重要になってくるだろうと考えております。

特に大学受験の方式がどんどん変わってきて、もう学力だけでは入学できない、合格できない制度に今後そういうふうに変わっていきます。いわゆるAO入試と言われているのが、ほぼそれがすべてになると思われまます。そうすると、高校時代に勉強以外に何に取り組んだのかということが重要になってきて、先ほど大迫高校の県外から留学生を募集する話もありましたけども、大迫高校に入学すると、都市部の高校で経験できないことがあって、それをやりたくて県外からやってくるのです。

今回ご存知かもしれませんが、西和賀高校の志願者倍率が1倍を超えました。これは北上市内の中学生が西和賀高校に志願しているためです。そのため西和賀町の中学生が、西和賀高校に入れないという状況までなっている。さらに今年は県外からも4名が今回入学するはずで。

これは西和賀町が西和賀高校の取り組みを全面的に支援して探求学習などに取り組んでいまして、それが魅力になっています。町役場だけでなく地域の皆さんが支えている現状もあると思いますので、それが先ほどおっしゃった中高生のシビックプライドを醸成する取り組みに繋がっていると思います。中高生のときにその課題解決に取り組んで、「こんなことできた」「自分がやったことが地域のためにこんないいことになった」ということを経験することによって、自分たちは地域に必要とされているし、地域のために何かできることがあるということを知ることによって将来、一回出ていっても戻ってきたいと思えるような、そういう思いで繋がってくるという状況になってきています。

ぜひ皆さんで子どもたちを育てていくことが将来の社会増に繋がってくるし、それを目指して皆さんで取り組んでいただきたいと思います。そして実際の取組を市民の方にも知っていただくことを、県もですが行政として一緒に取り組んでいけたらなと感じておりますので、よろしくお願ひします。

【中村良則座長】 ありがとうございます。振興局としても花巻市を全面的にバックアップ

してくれるということ。

様々な意見がありました。どうもありがとうございました。本日の議事は終了したいと思います。どうもご協力ありがとうございました。

4 その他
特になし

5 閉会